



令和4年度 福祉ポスター・標語・作文

入選作品集



相模原市



ごあいさつ

相模原市長 本村 賢太郎

相模原市では、72万市民に寄り添い、誰もが笑顔でいきいきと暮らせるまちづくりを進めております。

福祉に関するポスター、標語及び作文の作品募集は、未来を担う子ども達に、福祉への意識を持ち共有していただくことを目指して長きにわたり実施しており、本年も数多くの作品が寄せられました。この作品集は、ご応募いただいた作品の中から、最優秀及び優秀に入選された作品を収めたものです。

新型コロナウイルス感染症は未だ終息の兆しが見えませんが、寄せられた作品は、いずれも優しさや温かさ、そして未来への希望に満ちた素晴らしい作品ばかりで、社会に広がる不安を乗り越え、将来を見据えるまっすぐなまなざしが感じられました。日頃から福祉に関心を抱き、福祉を身近な問題として捉え、様々な角度から考えている若い世代を頼もしく感じるとともに、心温まる思いがいたしました。この作品集が多くの皆様の手に取られ、相手を思いやり、支えあう気持ちが社会全体に浸透し、福祉の輪をさらに大きく広げるきっかけとなれば幸いです。

結びに、ご応募いただきました皆様に心からお礼を申し上げますとともに、市民の皆様には共生社会の実現に向けて、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

福祉ポスター

小学生の部

最優秀

福祉Ⅱしあわせ・ゆたかさ
身近にできることから始めよう

青和学園

4年

岡野おかの

廉れん

P3

優秀

みんな大切

南大野小学校

2年

市原いちばら

彩瑚あこ

P4

優秀

マークをおぼえよう!

向陽小学校

3年

大澤おおさわ

杏奈あんな

P4

優秀

みんなの気持ちを考えよう

向陽小学校

3年

横田よこた

日和ひより

P5

優秀

十人十色
みんなちがってみんないい!!

桂北小学校

5年

上條かみじょう

楓花ふうか

P5

優秀

支える

向陽小学校

6年

井上いのうえ

歩郁ほのか

P6

福祉ポスター

中学生の部

最優秀 少しの気持ちで開ける道

東海大学付属
相模高等学校
中等部

3年

多賀

樹菜

P9

優秀 小さな優しさ 増える笑顔

相陽中学校

1年

岩井

真昼

P10

優秀 支え合う社会

大野南中学校

1年

山添陽南子

P10

優秀 届けよう思いやり

相陽中学校

2年

川竹

由紗

P11

優秀 それは思いやりの「印」なんです。

相陽中学校

2年

功刀ほのか

P11

優秀 助け合いの手広げよう

相陽中学校

2年

渡邊

美優

P12

福祉ポスター

青年の部

最優秀 目だけではわからない

東海大学付属
相模高等学校

1年

大山あおい

P15

優秀 思いやりのお裾分け

光明学園
相模原高等学校

1年

岡ちさと

P16

優秀 知ろう。そして、動け。

光明学園
相模原高等学校

1年

山田愛奈

P16

優秀 僕たちの成長の
援助をしています

東海大学付属
相模高等学校

3年

鴨下紘人

P17

優秀 飛んで 広がれ

東海大学付属
相模高等学校

3年

川端柚大

P17

優秀 行動する勇氣

東海大学付属
相模高等学校

3年

國井碧海

P18

優秀 信じて この瞳を

東海大学付属
相模高等学校

3年

脇屋雄仁

P18

福祉標語

【対象】
小学生

最優秀

やさしくしたり やさしくされたり
たすけられたり たすけたり

共和小学校

1年

浜端 はまばた

悠人 ゆうと

P21

優秀

わたしがわらう
みんなもわらう ひろがるえがお

くぬぎ台小学校

1年

高田 たかだ

紗花 さな

P22

優秀

どうしたの？
わたしにもできる お手伝い

共和小学校

4年

浜端 はまばた

明里 あかり

P22

優秀

ちよつとの気持ち
みんなで集めて 大きな力

南大野小学校

4年

藤生 ふじお

幸来 こころ

P23

優秀

ありがとう
やさしい心で たすけあい

陽光台小学校

4年

三井 みつい

玲奈 れいな

P23

優秀

心の声
いつでも聞くとよ 一人じゃないよ

相模台小学校

6年

長谷川スカイラー はせがわ

P24

福祉作文

【対象】
中学生

最優秀
福祉と私

相模原中等
教育学校

1年

大家おおか

美幸みゆき

P27

優秀
ひいおばあちゃん

相模原中等
教育学校

1年

磯部いそべ

空雅くうが

P29

優秀
思いやりの「心」

相模原中等
教育学校

1年

中井瑛莉香なかい えりか

P30

優秀

「障害＝マイナス」って、
誰が決めたの？

相模原中等
教育学校

1年

前田まえだ

千真かずまこと

P31

優秀
障害者と向き合う

相陽中学校

2年

角金かどかね

朋奈ともな

P32

優秀
今、私たちができることは

相陽中学校

2年

功刀ほのかくぬぎ

P33

福祉ポスター

小学生
の部



福祉 = しあわせ ゆたかさ

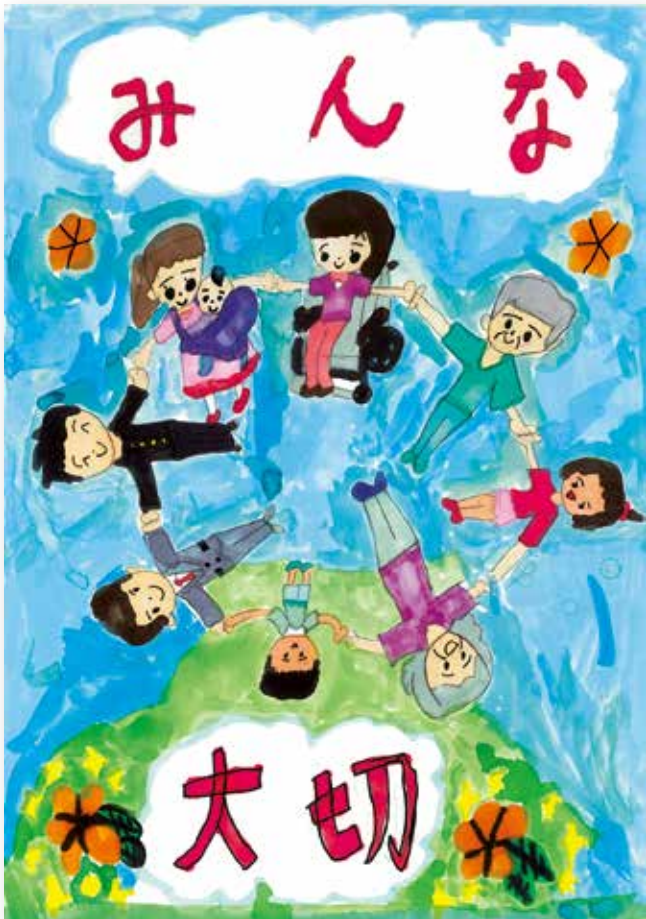
身近にできることから始めよう



小学生の部
最優秀

青和学園 4年

おかの
岡野 廉



小学生の部
優秀

南大野小学校 2年

いち はら あ こ
市原 彩瑚



小学生の部
優秀

向陽小学校 3年

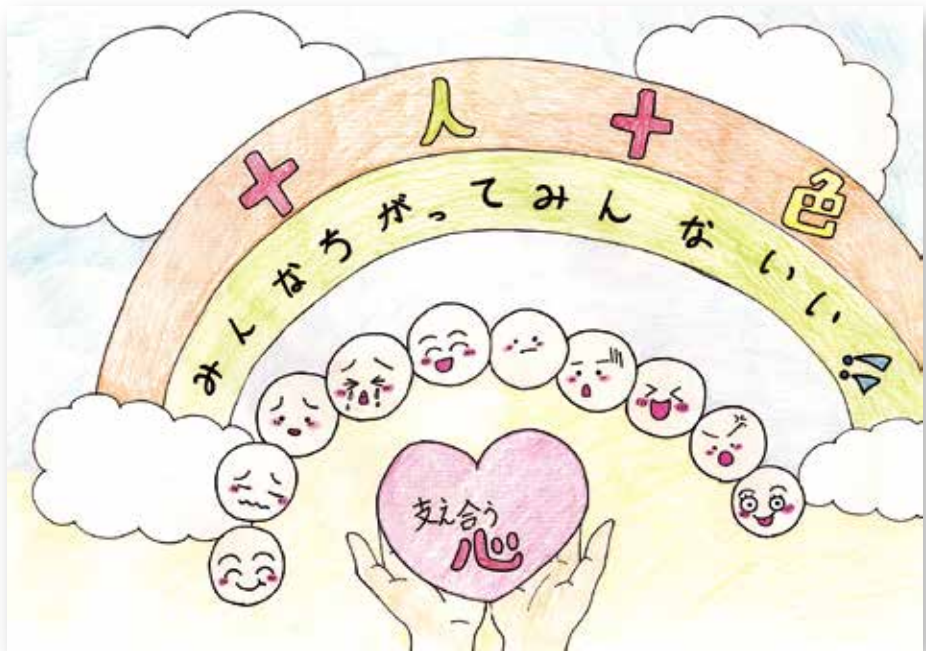
おお さわ あん な
大澤 杏奈



小学生の部
優秀

向陽小学校 3年

よこ た ひより
横田 日和



小学生の部
優秀

桂北小学校 5年

かみ じょう ふう か
上條 楓花



小学生の部
優秀

向陽小学校 6年

いのうえ ほのか
井上 歩郁

福祉ポスター

中学生
の部





中学生の部
最優秀

東海大学付属
相模高等学校中等部 3年

たが じゅな
多賀 樹菜



中学生の部
優秀

相陽中学校 1年

いわい まひる
岩井 真昼



中学生の部
優秀

大野南中学校 1年

やまぞえひなこ
山添陽南子



中学生の部
優 秀

相陽中学校 2年

かわ たけ ゆい さ
川竹 由紗



中学生の部
優 秀

相陽中学校 2年

くぬぎ
功刀ほのか



中学生の部
優秀

相陽中学校 2年

わた なべ み ゆ
渡邊 美優

福祉ポスター

青年
の部





東海大学付属
相模高等学校 1年

おお やま
大山あおい



青年の部
優 秀

光明学園
相模原高等学校 1年

おか
岡 ちさと



青年の部
優 秀

光明学園
相模原高等学校 1年

やま だ あい な
山田 愛奈



青年の部
優秀

東海大学附属
相模高等学校 3年

かもした ひろと
鴨下 紘人



青年の部
優秀

東海大学附属
相模高等学校 3年

かわばた ゆうた
川端 柚大



青年の部
優秀

東海大学付属
相模高等学校 3年

くに い あ お
國井 碧海



青年の部
優秀

東海大学付属
相模高等学校 3年

わき や たか ひと
脇屋 雄仁

福祉標語

【対象】

小学生



最優秀

やさしくしたり

やさしくされたり

たすけられたり

たすけたり

共和小学校 1年

はま ばた ゆう と
浜端 悠人

優 秀

わたしがわらう

みんなもわらう

ひろがるえがお

くぬぎ台小学校 1年

たか だ さ な
高田 紗花

優 秀

どうしたの？

わたしにもできる

お手伝い

共和小学校 4年

はま ばた あか り
浜端 明里

優 秀

ちよつとの気持ち

みんなを集めて

大きな力

南大野小学校 4年

ふじ お こ こ
藤生 幸来

優 秀

ありがとう

やさしい心で

たすけあい

陽光台小学校 4年

みつ い れい な
三井 玲奈

優 秀

心の声

いつでも聞くよ

一人じゃないよ

相模台小学校 6年

は せ が わ
長谷川スカイラー

福祉作文

【对象】

中学生



最優秀

福祉と私

相模原中等教育学校

1年

大家おおか

美幸みゆき

私には知的障害のある伯母さんがいます。伯母さんの子供のころは「障害」ということについての理解が少なかったため心ないことや嫌なことを言われて、悲しい思いをしたことがあったそうです。その経験を聞いた私は、障害への理解が少しずつ深まってきている今、障害のある人々の生活がどのように変わったのを知りたいと思いました。

今、伯母は就労支援施設という所で働いているそうです。就労支援施設とは障害や疾患がある方の就労を支援し、かつ就職し働き続けていく過程を支援する施設です。ここではクッキーやパンを作ったりチラシを封筒に入れたりなどの軽作業をしています。また、そのような作業をしながらお喋りをしたり優しい職員の人たちと一緒に楽しくすごしているそうです。そこでもらえる給料は一か月数千円程度と少ないけれど、そのお金で家族や私たちにプレゼントを買ってくれて、私たちも伯母さんも嬉しい気持ちになれます。

障害者へのサービスには、伯母さんが行っているような日常生活や社会生活を営むために必要な訓練などの支援を提供する「訓練等給付」と日常生活に必要な介護の支援を提供する「介護給付」の二種類が中心となっています。これらのサービスによって社会とのつながりが生まれ、毎日が楽しく感じられることにつながります。私の伯母さんは就労支援施設に通う前は、レストランのキッチンで皿洗いをしていたけれど、周りの人との人間関係が上手くいかなかった

たり障害者に対しての偏見などでとても悲しい思いをしたと言っていました。

しかし、就労支援施設では同じ境遇の人がたくさんいる中で楽しくお話をしながら仕事をするのができ、とても楽しく通えているそうです。

また、私の曾祖母は老人福祉施設に通っていました。一人暮らしをしていた時、八十代では掃除や洗濯、料理など何でも出来ていたけれど、九十代にさしかかると出来ないことが増えていったそうです。しかし、ヘルパーさんやデイサービスなど日帰り入浴や食事等の介護をしてくれるサービスにより自分だけでは出来ないことをしてもらったことで曾祖母の負担が減ったと言っていました。

問題が解決したかと思っていた時、曾祖母の家でトイレが壊れたり電気がつかなくなったりすると対処ができず、祖母に電話で助けを求めていたのですが、耳が遠くなりそれすらもできなくなってしまうため不安がとて大きくなくなってしまったそうです。

そこで老人ホームに入ることに決めました。健康チェックや食事、お風呂に入らせてくれたりたくさん仲間たちと一緒に喋りをしたりできることで、曾祖母も安心してすごすことができる場所だと喜んでいました。

このような福祉ができたのは実は二十年前からと最近なのです。

祖母の子供のころは福祉という言葉や概念すらなく、平気で障害者の人のことを差別したり馬鹿にするような態度で接している人が多くいたそうです。福祉制度ができたことで少しずつ障害者に対しての認識が広まりつつあります。小学校には障害のある子供たちが通う特別支援学級や勉強が苦手な子供たちのために教科ごとに普通の子供たちとはまた別に授業を受けることができる教室があります。このような学級では、学習面でのサポートが普通より手厚く受けら

れたり苦手なことをゆっくり改善することができ、子供たちにとって安心して過ごせる居場所となっています。

また、介護保険制度ができたことで、かつては子どもや家族が行うものとされていた親の介護を社会全体で支えることで家族の負担を軽減し、介護負担による離職等を減らすことができるようになりました。

また、それを通して高齢者自身も外の世界で様々な人たちと関わることができるようになりました。

もし、福祉がなければ障害者の人や高齢者の人たちが家から出る機会が減り、家族だけで世話をすることになり、障害者の家族の人にも障害者の人自身も幸せと思える人生を送ることが難しくなってしまうでしょう。

福祉は、健常者の人や障害者の人、高齢者の人の全員が社会とつながることができ、それにより充実した人間らしい幸せな人生を生きる機会を与えてくれる重要な役割を果たす制度だと思っています。



優 秀

ひいおばあちゃん

相模原中等教育学校

1年

磯部

空雅

僕のひいおばあちゃんは認知症です。ひいおじいちゃんが亡くなってから、祖父母の家で介護してもらっています。ひいおばあちゃんは、靴下がなくなってぬすまれたとかん違いしたり、無意味におこつたりすることがありました。僕はそんな出来事が起きることを知ったときなぜか悲しくなりました。今考えると、昔の認知症ではなかったはずと笑っているひいおばあちゃんではなかったからだと思います。

ある日、祖父母の家に行くと、自分の猫にえさをあげている元気なひいおばあちゃんの姿がありました。そして、主にひいおばあちゃんの介護をしている祖母に「介護って大変なの?」と聞くと祖母は

「ものすごく大変だよ。着がえさせて、ご飯作って、ベッド整理して、となにからなにまで全部やらなきゃいけないからね。」と言っていました。

僕はひいおばあちゃんとダーツを楽しんでから帰りました。

祖父母の家に行ってから約三カ月くらいたった時、新型コロナウイルスが日本にも流行しはじめました。

そして、新型コロナウイルスが流行してから半月くらいたったとき、ひいおばあちゃんが祖父母から感染しないようにするため、介護の負担が大きいため、市内の介護施設に行くことになりました。

それから一週間たったとき、祖父から父にひいおばあちゃんが介護施設で新型コロナウイルスに感染して息をひきとったと連絡がありました。約四カ月前まで祖父母の家でひいおばあちゃんと元気に遊んでいた身としては、とても悲しくなって涙が止まりませんでした。しかし、約四カ月前にひいおばあちゃんに会ったことは、僕たち家族にとっても、意味のあることだと思います。また、ひいおばあちゃんの死を身近で感じたことによって、ひいおばあちゃんが祖母などのいろいろな人にお世話になっていたというのがわかって、自分も同じように、いろいろな人に支えてもらっているということ学びました。

僕は、これからはまわりの人を手本として祖母のように、いろいろな人を支えられる存在になりたいと思います。

また、ひいおばあちゃんの分まで精一杯生きていこうと思います。



優秀

思いやりの「心」

相模原中等教育学校

1年

中井瑛利香

「福祉といえど」ということを周りの人にインタビュース、インターネットや国語辞典で調べました。そして、私も人に聞いたり調べたりする前に、「福祉」という言葉から頭に浮かぶものを考えました。

このとき、私は介護施設や障害者、生活が不自由な人への配慮が浮かびました。そのあと「福祉」の本当の意味を調べたところ、国語辞典には「多くの人々の幸せ。幸福。」と書いてあり、インターネットでも「しあわせ」や「ゆたかさ」を意味する言葉だ、とありました。私にとってこの説明は理解しやすく、さらに深く納得しました。「福祉」とは地球上の全ての人に関係し、障害や年齢などに関わらず全ての人がいるいろいろな「幸せ」になることなのです。そこで私は、家の中や通学中などの身の回りの「福祉」を探してみました。

私が駅で見つけたことは「音声案内」や「壁にある点字」、「地面にある点字ブロック」、「階段の隣にあるスロープ」です。他にも道路ではノンステップバスがあり、家の中にも手すりがあるなど、身の回りの「福祉」はたくさんあることが分かりました。そして私は「ユニバーサルデザイン」に注目しました。

まず、意味を調べました。「ユニバーサル」の意味は「すべてに共通の」、「普遍的な」とあり、「ユニバーサルデザイン」を日本語にすると、「すべての人のためのデザイン」、「みんなにやさしいデ

ザイン」となるそうです。もう少し詳しくすると「年齢や体の不自由さなどに関係なく誰もが無理なく使えるようにデザインすること。また、そのようなデザイン」という意味です。さらに、形あるものだけをさしているのではなく「心のユニバーサルデザイン」という言葉があります。ユニバーサルデザインには多くの意味がこめられています。そして「バリアフリー」という言葉もありますが、これは特定の誰かのためということで、バリアを見つけ、それを取り除くような取り組みをするのに対し、ユニバーサルデザインは多くの人が使いやすいデザインを初めから考えることなのです。

私はユニバーサルデザインの中でも特に「心」のユニバーサルデザインについて注目しました。まず、調べていくうちに「思いやり」と似ていると考えました。これは普通のユニバーサルデザインと同じです。私のもっとみんなに思いやりのある行動をしてほしい、と思っています。例えば、歩いていると自転車が点字ブロックの上止めてあるのを見かけます。この様子はもちろん、目の不自由な人にとって邪魔で困りますが、車いすを使っている人にとっても道に自転車が止めてあるのはとても迷惑です。

このように、ある人達には思いやりの「心」が足りてないと思います。自分のことも大切ですが誰もが困らないように考えて「すべての人のため」、「みんなにやさしい」行動をして欲しいです。

優 秀

「障害＝マイナス」って、誰が決めたの？

相模原中等教育学校

1年

前田まえだ

千真ちまき

大学に通っていた母のインクルーシブ教育の授業の関係から、僕は、障害があり車いすで生活している人たちの、ダンス教室に、母と一緒に参加したことがありました。

僕はダンス教室づくまでは、「障害がある方の集まりは、あまり明るくないのではないか」という気持ちがありました。それどころか、家を出るまでは、そもそも「どうしてそんなところに行かなければいけないんだ？面倒くさいから行きたくない」とすら思っていました。でも、結局母に連れられて行くことになりました。

2時間後、ダンス教室に到着しました。そこには、想像していた通り、車いすに乗っている方が、たくさんいました。しかし、僕の想像通りだったのは、そこまででした。

少して、教室が始まると、教室は最初から音楽を流して、「自由に踊ってください」というものでした。しかし、僕は先生が、1つ1つの動きまで細かく解説して、みんなと同じ踊りをするものだと思っていたのでとてもまどいました。

しかし僕は、このあともすごい衝撃を受けることになるのです。というのは、僕は、知らない人たちの前で、自分で考えた踊りを踊るなんて笑われてしまいそうで、恥ずかしくてできないと思いがながらも、適当に小さな動きで踊っていました。そんな中、ふとほかの人を見てみると、皆僕の想像を超えたダンスを踊っていました。僕にとってのダンスは、マイケルジャクソンとか、アイドルが踊っ

ているダンスのことでしたが、そういうダンスとは全く違う、僕にとって新しいダンスでした。教室に来ていた人たちは、みんな違うところに障害があつて、車いすは動かせるけど、右半身しか動かない人や、腕にも障害があつて、そもそも車いすが動かせない人もいました。その人たちは、自分の障害のある部分を隠そうともせず、それを生かすようなダンスをしていました。もしも僕に障害があったら、この人たちとは違い、不自由な部分を隠すために、今よりもっと小さな動きでしか踊っていなかったと思います。しかし、この人たちは、障害があつても、それが自分である、と、障害があることを自分の個性としてしっかりと受け入れているのです。これは、僕にとって、鋼鉄で頭を思いっきり殴られたような衝撃でした。

それは、「障害があることは、不便ではない」「障害はただマイナスなだけ」という考えを僕はもっていました。この人たちは「障害は個性である」という考えだったからです。

僕がはじめ思っていた、「障害がある方の集まりは、あまり明るくないのではないか」という不安は、教室が終わった時には、完全に消え去っていました。僕があまり明るくないと思っていた理由は、「障害があることを気にしているから」でしたが、全員障害など気にしていない、明るい人ばかりでした。

僕のように、「障害のある人は明るくない」と考え、障害のある人との交流をしない人を減らし、障害のある人だけが浮いてしまう、ということをなくすために、まずは僕から、積極的に困っている方を手伝ったり、交流を増やしたりして、少しずつでも、障害のある人となない人が、平等に、明るく楽しく過ごすことのできる社会を作っていきたいと思います。

優 秀

障害者への向き合い

相模原市立相陽中学校

2年

角金 なごかね

朋奈 ともな

人権は誰しも生まれた時から持っているもので、それは障害者の方と同じです。私は母が教えてくれた事件の「障害者なんていなくなっ
てしまえ。」という言葉は忘れられません。

皆さんは「障害者」と聞くと、何を思いつきますか？私は自分の体
験と、ある事件が思いつくのですが、一つとも障害者の権利や見方、
考え方が変わるものでした。私はこの学習で自分や色々な人の障害者
の方への考えが変わればいいなと思います。

一つ目は私の身近な体験です。私には今でもよく一緒にいる友達が
いるのですが、私と友達が中学一年の時、その友達から障害のあるこ
とを明かされました。私はその時、驚きと不安がありました。とても
身近な人が障害があったということ、今までその子を傷つけたりし
ていないか、支えられていたのかということ。それから私はその
友達に頼まれた時はできるだけサポートをするようになりました。私は
この出来事から、相手を傷つけないように支え合ったり、フォローし
合つことが大切だと気がきました。

二つ目は私が住んでいる相模原で起きた事件です。二〇一六年七月
二十六日に起きた『相模原障害者施設殺傷事件』という、死傷者が
四十五名ほど出た事件で、その死傷者のほとんどが障害がある方でし
た。この事件の犯人は昔から「障害者はいらない。」や、「この事件に
対して、「この犯罪は日本のために行った。」という考えや発言をし
ました。これは優生思想という優れた人間だけの社会を作ろうとする考

えにまつわるものや、特定の属性を持つ人間の偏見や憎悪により起こ
る犯罪、『ハイトクライム(憎悪犯罪)』とも考えられています。私は
このハイトクライムが障害のある方のことを良く思わない考えの一つ
となり、差別を起こしている原因だと思っています。

この体験と事件の二つのことから学んだことは、相手を傷つけず、
理解し、支え合ったり、サポートしたりすること、障害がある方も私
たちと同じ人間であり、差別をしてはいけないことです。もちろん、
差別は絶対にしてはいけないことですし、それが犯罪につながったり
することもいけません。だから、そのようなことを起こさせない社会
づくりや環境づくり、障害がある方などの人権、権利を見直したり、
学べるような時間をもっと多く取ったりすることが差別の減少につな
がるのではないのでしょうか。

自分や自分達が今後できることは、身近な人を、今自分がやれるだ
けのサポートをしたり、二度とあの事件のようなことが起きないよ
う、今の私たちにできることを考えて行動してみることだと思
います。例えば、今私が考えているのは、「障害について、もっと理解
し、考えられるようになること。」や「将来の夢や地域のボランティア
などの障害がある方をサポートする仕事を視野に入れてみることに
です。私は、学校や家庭で知れる機会が少なく、考えることも少し難
しいです。だから、学校のタブレットPCを持ち帰って調べたり、実
際に体験して分かることもあると思います。これからも障害がある方
のことを考え、将来につなげられればいいなと思います。

私はこの作文を通して、「目に見える障害のある人、目に見えない
障害のある人も、私たちと同じ人間で、障害がある方に人権があるの
は当たり前だし、障害で悩んでいる人や傷ついている人が意外と近く
にいるかもしれない。」ということを知ってほしいです。

最後にもう一度言いますが、『人権はすべての人々が生まれながら
に持っている』ということをお忘れなくください。

今、私たちができることは

相模原市相陽中学校 2年 功刀ほのか

みなさんは障がいのある方と聞くと、どんな印象をもちますか。現在、私たちの日常生活には誰もが住みやすい社会にするために様々なものが設置されています。また障がいの者の差別を無くそうという動きもみられています。それでは、そのような社会の動きがみられる中で私たち一人一人ができることはなんでしょうか。今回のテーマ設定の理由もそこからきています。このことを考えた時に三つのことが考えられたので自分の経験もふまえながら紹介していきたいと思っています。

まず一つ目は認め合うことだと思います。どうしても障がい者というワードを聞くと、大変そう、つらそう、苦しそうといったネガティブなキーワードしかでてこないことが多いです。たしかに障がいというハードルがあるので普通にできないこともあると思いますし、つらい、苦しいと考えている人もいます。けれどパラリンピック代表の人たちを思い出してみてください。代表の人たちは、ハードルがありながらも一生懸命にスポーツを楽しんでいたと思います。このことから、障がいのある方は、「障がいがあったとしても」と考える人と「障がいがあるから」と考える人がいると感じました。私たちはそのことを理解して障がい者によって障がいへの捉え方が違うことを認めることが大切だと思います。また障がいのある方同士でも考え方、捉え方を認め合っていけば、互いに過こしやすくなると思います。

二つ目は福祉マークへの理解です。私は現在、美術部に入部しています。そしてその活動の中で福祉ポスターコンクール応募のため

に福祉マークについて調べる機会がありました。その時に、見かけたことはあるけれど、どんな意味かは知らないマークがいくつかありました。このような経験から、私はマークについて興味をもち、もっと知りたいという気持ちに変わりました。私は自分のようになにかがきっかけでもっと多くの人に意味を知ってほしいと思います。そのためには、もっとマークの意味を知ってもらうために、ポスターや、パンフレットをつくれればよいと感じました。そして身につけたマークの知識でマークをつけている人に思いやりの心をもってほしいと思いました。

最後に三つ目は、偏見をもたないことです。前にもかいた通り障がい者のイメージは、大変そう、つらそう、苦しそうといったものから人によっては怖そうと感じている人もいるかもしれません。けれど忘れてほしくないのは個人差があるということです。人にはそれぞれ生まれもった性格や、自分なりの考え方があります。もちろんそれは障がいのある方も同じです。それなのに私たちが勝手に障がい者はこんな人たちなんだ、だから私たちはこうしてあげるんだと型にいれこんでしまつては、生きづらくなってしまふ人もいます。また、それは障がい者の家族の方にも当てはまります。勝手な偏見で障がい者の家族はかわいそうだと決めつけてしまつてはいけません。これもまたその人の考えを尊重すべきだと私は思います。

最後に私自身が障がいのある方のためにできることを考えてみました。それはあたたかく見守ることだと思います。今までの話からも障がい者によって考え方は様々だと思いました。なのでむやみやたらに声をかけるのではなく、本当に困つていそうな時だけとかにするのがいいと思います。最後に一つみなさんに聞きたいことがあります。みなさんは障がいのある方と聞くと、どんな印象をもちますか。自分の解をだしてもらえるとうれしいです。



相模原市 地域包括ケア推進課

〒252-5277 相模原市中央区中央 2-11-15
TEL 042-769-9222 FAX 042-759-4395
E-mail hokatsucare@city.sagamihara.kanagawa.jp

発行：令和4年(2022年)11月